

「未来高岡」ステップアップトーク（西条地区）会議記録 ＜要旨＞

1、日 時 平成 28 年 11 月 27 日（日） 午後 7 時 30 分から 8 時 30 分

2、場 所 西条公民館

3、出席者 市民 88 名（うち女性 22 名）

高岡市 市長、経営企画部長、広報統計課長

4、会議次第

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

.....

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

参加者

- ・四屋のパチンコ店が 20 数年前から営業を停止しているが、建物がそのままになっているので撤去してもらえるよう市から働きかけてほしい。

市長

- ・民間の問題について行政がどのように関わられるか難しい面もあり、店舗の権利関係もあることから、まずは事実関係を確かめたい。

参加者

- ・市の広報紙などは自治会あてに送られてくる一方、免許証など公のものに住所を記載するときには大字名でないと通用しない。個人的には行政区の表記を残してほしいので、自治会を通して住民に意見を聞いてほしい。

市長

- ・郵便配達や公の表示について、わかりやすくなるよう整理した時期があり、昔から慣れていた名前と違う表示で住所になるケースは稀にある。平米地区の袋町や平米町のように、旧町名に戻したケースもある。市にも相談いただきながら、地元でも実例や仕組みについて調査いただければと思う。

参加者

- ・西条小学校は校舎とグラウンドが道路を挟んで分かれており、地下道を通って行き来しなければならないが、地下道の老朽化が進んでおり照明も不安定であるため市に要望もしている。早急に対策を講じてほしい。

市長

- ・全面改修となると難しい面があるが、状況を確認して安全対策について考えていきたい。

参加者

- ・保育園に預けている子どもが発熱するなど体調が悪くなるとすぐに親に連絡がくるが、病気後、少し体調が回復しても親が何日も仕事を休まなくてはならないときがある。そのため、保育園で病児、病後児保育ができるようにしてほしい。

市長

- ・市として、体調不良の子どもや病後児の子どもに対して、これまでも様々な対応をしてきた。病気の子どもの預かるときはドクターが必要であることから、市内の他の場所で行うのが難しく、現在は高岡ふしき病院で行っているのみである。ただ、病院と協力できるところがあれば行っていきたいと考えている。また、民間の保育園に対しては、市から要請しているところだが、公立保育園については、地域の状況をみながら考えていきたい。

参加者

- ・昨年まで高岡市は文化創造都市を掲げていたが、総合計画におけるまちの将来像として“市民創造都市”を掲げた理由はどのようなものか。同志社大学教授である佐々木雅幸氏のいうクリエイティブ・シティとは異なった方向に進もうとしているのか。

市長

- ・高岡市の日本遺産のタイトルにも「人、技、心」という文言があるように、人の営み、生き様が文化だと思っている。人の営みが文化、暮らし方のパターンを作っていく、洗練された暮らし方がいい作品を生み出したり、家庭でのあしらいに現れる。文化は人の営みの中で生まれてくるものだと思っている。文化という「かたち」として述べる場合の文化創造都市と、「かたち」をつくっている行動主体について述べる場合の市民創造都市とを、局面にあわせて使用していきたいと考えている。

参加者

- ・日本遺産を活用してほしいという思いはあるが、浸透不足だと感じている。高岡市だけでなく、文化庁がPR不足ではないかと思っている。2020年の東京オリンピックまでに国内で100か所ほど指定し、多くの外国人観光客を日本に呼び込みたいとのことだが、日本人でもあまり浸透していないことから、外国人が日本遺産について知っているのか疑問を感じる。海外に向けてどのような発信がされているのか。

市長

- ・日本遺産は昨年からはまったことでありまだ浸透に時間がかかっているが、徐々に浸透してきているとも感じている。昨日も海外からマスコミに来ていただき、金屋町取材していただいたが、このような努力を積み重ねていきたい。

参加者

- ・現在、北陸には様々なものづくり産業が集積している。富山県は女性就業率が 70%以上と高い水準にあるが、ものづくり分野を担う女性技術者が少ないのが課題である。高岡市の強みであるものづくりについて、次世代を担う技術者、研究者やリーダーの育成に、今後の高岡市の発展に寄与すべく、人材が資源になると感じている。現在、高岡市において女性の能力発揮のためにどのような戦略やプロジェクトがあるか教えてほしい。

市長

- ・ものづくりのクラフトやデザインの分野では、富山大学芸術文化学部などで女性の方々は多い。また、県外出身の方が多いので、できるだけ高岡市に定住してもらえるよう、住居を用意するなどの取り組みが進んでいる。
最近では、高岡市役所でも女性の土木技師などの採用が増えているが、消防署においても女性の力が必要となってくることから、今後は女性の消防職員も増えてほしいと考えている。市では、地方創生の取り組みを強化するため、富山県立大学をはじめ各大学と連携協定を結んでいる。高岡市が推進する事業に、女性にも興味を持っていただいて技術を高めてもらうことも可能だと考える。その他、県西部地域に 3 か所あった看護学校を統合して、高岡駅のそばに新しい看護専門学校を開設する。統合することで規模が大きくなれば教育にも良い影響を与えることができるものと思っており期待している。